

# 遺伝子組換え作物 対話フォーラムプロジェクト

## プロジェクトの主旨

今日、私たちは科学技術の発展によって種々の恩恵を受けています。しかし、科学技術は私たちの生活に多くの利便性をもたらすだけでなく、様々な危険性やリスクをもたらしします。よって、新しい技術の導入の是非を考えるときには、常にマイナス面も考慮する必要があります。科学技術を社会に適用していくためには、科学技術についての理解を深めるとともに、社会全体で適切にコントロールすることも必要です。

ここ北海道では、数年来、遺伝子組換え作物の栽培をめぐる、多くの議論が行われてきました。しかし様々な立場の人が、一定の共通理解をもちながら議論を進めていく場はいまだ作り出されていないように思われます。

本プロジェクトは、遺伝子組換え作物に関わる様々な利害関係者の間に横たわる相互理解の不足を、「対話」によって埋めることを目的にしています。研究者、消費者、生産者、食品加工・流通業者、地域住民、マスコミ関係者など、できるだけ多くの、様々な立場の方々が同じテーブルについて、お互いの意見を尊重しあい、けっして結論を急ぐことなく議論を積み重ねていく過程で、この目的は達成されると考えられます。

この対話フォーラムは、特定の結論を得ることを目指すものではありません。むしろ、こうした議論の積み重ねの中で、何らかの共通理解を得ようとするものです。また、こうして得られた共通理解が政策に反映されていくことを期待しています。

## プロジェクトの目的

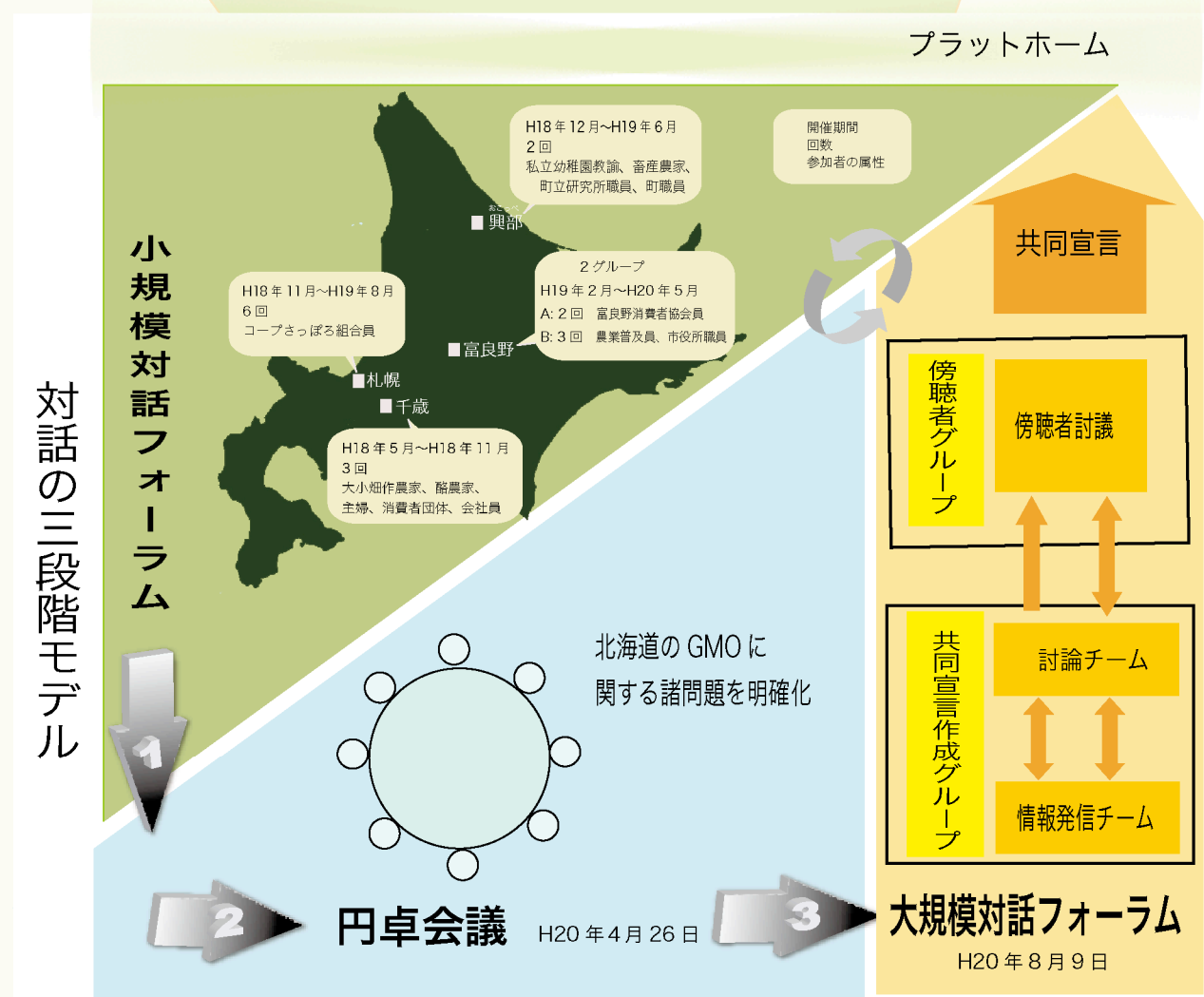
1. 専門家の社会リテラシーと市民の科学リテラシーの向上を図る。
2. 科学者・技術者と市民との熟議を促す対話モデル（対話の三段階モデル）を構築する。

### 【留意点】

双方向性：情報の相互伝達や意見交換を行うだけでなく、双方（自ら）の態度を変化させる覚悟をもって対話に望むこと。結果として態度が変化しないこともあり得る。

協働：対話の場作りに関する市民参加のプロセスとして、テーマ設定、ゲストの選定、運営などに研究者側と参加者側が対等な立場で関わる。

## プロジェクト内容



### Step 1 小規模対話フォーラム

#### ◆目的

1. GM作物に憂慮する人々と研究者の中立的で双方向的な対話の場を設ける。
2. グループごとに課題を共有する。

#### ◆結果

1. 開催場所ごとに参加者の属性、対話の性格が異なった。
2. 表面化した問題に共通性と個性がみられた。

#### ◆フォーラムの話題

- \* イネの育種研究
- \* 非隔離栽培された GM 作物の周辺生態系への影響
- \* 食の安全とリスク
- \* バイオエネルギー（炭素循環・GM作物・地域ブランド）
- \* セルロース系バイオマス資源としての永年性作物の期待
- \* 北海道農業の現状と将来像
- \* GM作物の技術的特質と可能性について
- \* 食と食材の未来を考える
- \* 動物実験ってなに？

### 写真

### 写真

### 写真

### Step 2 円卓会議

2008年4月26日

#### ◆目的

各地の小規模対話フォーラムで出てきた諸問題を整理し、大規模対話フォーラムで検討する課題を決定する。

#### ◆結果

1. 大規模対話フォーラムで検討する課題を決定した。
  - ① 北海道農業をどうデザインするか
  - ② 科学者・行政の求める役割
  - ③ 選択の自由
2. 議論の中で、GMと非GMの「共存ありき」の考え方に対する反発が見られた。

### 写真

### Step 3 大規模対話フォーラム

2008年8月9日

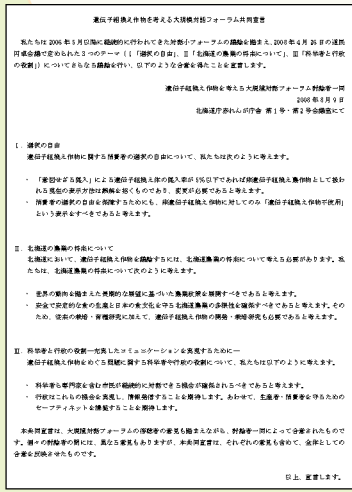
#### ◆目的

円卓会議で決定した課題を傍聴者を組み込んで討議を行い、共同宣言を作成し、発信する。

#### ◆結果

「遺伝子組換え作物に関する共同宣言」を作成し、8月22日に北海道に提出した。

### 写真



### 専門家会議

2006年11月25日 専門家座談会  
2007年2月4日 専門家フォーカスグループインタビュー  
2007年9月30日 専門家意見交換会

#### ◆目的

本研究の「対話の三段階モデル」と「北海道コンセンサス会議」の比較を行うと共に、市民の要望「異なる見解の専門家の対談を聞きたい」の可能性を探る。

#### ◆結果

専門家の多くが、異なる見解の専門家との対話の可能性と必要性を認めた。

### 写真

## 結果

1. 非専門家の科学リテラシーの向上という目的に対しては一定の成果が得られたが、研究者の社会リテラシーの向上という目的に対しては、非専門家ほどの成果は得られなかった。
2. 研究者の意識の変化という点では一定の成果が得られたが、非専門家の意識の変化という点では研究者ほどの成果は得られなかった。
3. 相互理解という点では、参加者全体の評価として一定の評価を得ることができたが、研究者と非専門家の当事者からの評価は必ずしも十分とは言えない。
4. 両者（研究者と参加者の市民）の変化の観察結果より、研究者の態度の変化は、市民の態度を変化させ、遠かった研究者と市民の距離が縮まり、より深い議論が可能となった。
5. 「小規模対話フォーラム」での信頼の醸成と知識の共有、「円卓会議」での論点の可視化、「大規模対話フォーラム」での合意といったプロセスは、本研究で設定された諸目的の達成の上で十分機能したと考えられる。
6. 専門家の社会リテラシーの向上に関しては、プロジェクトに関わった時間との相関関係は見られなかった。

## 課題

1. 本プロジェクトにより非専門家の科学リテラシーは向上したものの、それがそのまま意識の変化につながるとは言えず、研究者の意識の変化はあるものの、それがそのまま社会リテラシーの向上につながるとは言えないため、この理解と意識変化の懸隔をいかにつないでいくかが課題である。
2. 第1のリテラシー向上と第2の意識変化から第3の相互理解に至るまでのメカニズムを解明しつつ、そこに至らしめるプロセスを補うことで、科学者・技術者と市民の対話を促すモデルとしての有効性が高まるものと考えられる。
3. 大規模対話フォーラムの傍聴者の参加のしかたについて、工夫が必要である。

## 活動経過

- 2006年（平成18）
- 3月 GM作物対話フォーラムプロジェクト説明会
  - 11月 第1回GM作物対話フォーラム in 札幌
  - 5月 第1回GM作物対話フォーラム in 千歳
  - 6月 第1回GM作物対話フォーラム in 興部
  - 10月 第2回GM作物対話フォーラム in 千歳
  - 11月 第3回GM作物対話フォーラム in 千歳
  - 11月 北海道コンセンサス会議（-H18年2月：北海道主催）
  - 11月 専門家座談会
  - 12月 第2回GM作物対話フォーラム in 興部
- 2007年（平成19）
- 1月 第2回GM作物対話フォーラム in 札幌
  - 1月 第3回GM作物対話フォーラム in 札幌
  - 2月 専門家フォーカスグループインタビュー
  - 2月 第1回GM作物対話フォーラム in 富良野
  - 2月 第2回GM作物対話フォーラム in 富良野
  - 3月 第4回GM作物対話フォーラム in 札幌
  - 3月 **ブレ円卓会議**
  - 7月 第5回GM作物対話フォーラム in 札幌
  - 8月 第6回GM作物対話フォーラム in 札幌
  - 9月 専門家意見交換会
- 2008年（平成20）
- 2月 第3回GM作物対話フォーラム in 富良野
  - 2月 第4回GM作物対話フォーラム in 富良野
  - 5月 第5回GM作物対話フォーラム in 富良野
  - 4月 **円卓会議**
  - 8月 **遺伝子組換え作物を考える大規模対話フォーラム**
  - 8月 **共同宣言を北海道に提出**

遺伝子組換え作物対話フォーラムプロジェクト  
<http://www.agr.hokudai.ac.jp/gmtaiwa/>